

多様な評価を生かし、児童の話す力の向上をめざす一実践

茨城県結城市立結城小学校

たじまたか こ
田嶋貴子

【実践の内容】

児童の話す力を向上させるためには、自信が不可欠である。多様な評価を取り入れ、児童がより自信をもち、話す力を向上させる評価の生かし方を研究した。学習の段階に応じて、自己評価や相互評価、保護者からの評価、下級生からの評価などを取り入れた。話す練習をする段階で、児童の自己評価と相互評価を数値化してみると、自己評価の高低が見えてきた。自己評価の低い児童に、友達からの高い評価や保護者からの温かい励ましの評価を伝えたところ、自信をもち、より意欲的に活動するようになった。

【論文内容の紹介】

1 研究のねらい

- 児童が自信をもち、話す力を向上させるために、有効な評価方法や評価の生かし方を研究する。
- 児童による自己評価や相互評価の生かし方を研究する。

2 研究の実際

- (1) 単元名 修学旅行特集番組を作ろう
—— 5年生を玉岡スタジオにご紹介! ——
- (2) 学習計画の概略と取り入れた主な評価

段階	主な活動・内容	主な評価
とらえる	・学習計画づくり	・自己評価
しらべる	・テレビ番組の構成役割、工夫点調べ	・自己評価 ・担任評価
ねりあげる	・番組の構成や役割の相談 ・進行表、台本づくり ・番組の発表練習	・視聴覚機器を活用した評価 ・相互評価

ひろげる	・リハーサル ・番組の発表会 ・発表会及び全体の振り返り	・保護者からの評価 ・5年生からの評価
------	------------------------------------	------------------------

(3) 学習活動及び評価の実際

①とらえる段階での学習活動と評価

児童が3年生のときに撮ったスピーチのビデオを視聴し、単元のめあてや計画を立てた。授業後、振り返り表に自己評価をした。

②しらべる段階での学習活動と評価

家庭学習で調べてきたテレビ番組の工夫点などを報告し、よりよい番組づくりのコツについて話し合った。家庭学習でがんばった児童を賞賛し、意欲を高めた。

③ねりあげる段階での学習活動と評価

話す際に注意する6観点を設けたワークシートを活用し、グループ内や2グループ間で練習を行った。6観点の自己評価と相互評価をそれぞれ数値化して比較してみると、その数値の開きの大きい児童と小さい児童が明らかになった。自己評価が低く自信がないと思われる児童に、友達からの評価は高いことを伝え、より自信がもてるようにした。

④ひろげる段階での学習活動と評価

授業参観の時にリハーサルを行い、保護者にも6観点の評価とコメントの協力を得た。その後、5年生を招待して発表会を行い、番組の楽しさや分かりやすさなどの評価をしてもらった。保護者や5年生からの評価は、振り返りに役立て、話す力の向上につながった。

3 成果と今後の課題

多様な評価を取り入れ、その評価を児童に返すことにより、児童は話す力を向上させることができた。また、評価観点を数値化し、検討することで、自己評価が低い児童の傾向が分かった。それらの児童に友達からの高い評価や保護者からの温かい励ましの評価を伝えたところ、自信をもち、意欲的に活動するようになった。今後、さらに児童の評価力を向上させる手立てを研究していきたい。